

## 寂れ行く村の信仰

茂手木 洋

私の生まれはここ埋蔵文化財センターより東方にあり、山の奥で今はうぐいすラインが通っておりますが、辺鄙なところでした。昔は上総国市原郡勝馬邑と言っておりました。

私共の氏神様は日枝神社三王様です。能満の府中日吉神社と同じで狛猿で三王様の使いの神猿です。

神社記には朱雀天皇の御代承平7年(936)12月申の日に近江ノ国日吉大神より勧請とあります。

私は趣味で自宅の裏山の土手に草刈りアートを始めました。書家が上等な和紙を目の前にすると何か書きたくなり、彫刻家が良い木材を見ると彫りたくなると聞きますが、私はよい草を見ると何か刈り上げてみたくなる癖があります。

日本農業新聞、JA便り、シティライフ等に何回か報道されました。特に、平成23年3月11日の東日本大震災の発生時、日本頑張れと誠意を以って刈り上げました。2020年東京オリンピック開催決定のオモテナシも大好評でした。

市原市市制50年の時に富士山が待望の世界遺産となり、三保の松原も追加公認となりました。又、リオオリンピック2016年には市津地区出身の秦田由加子選手がパラリンピックトライアスロンで堂々6位入賞し、市原市長から市民栄誉賞を受け、私は記念に草刈りアートの写真を贈りましたら、大変喜んで貰えました。

私の故郷、勝間村は昔から信仰している講が7つありました。

- 1、出羽三山行人講(行入会員55人 DVD収録)
- 2、大師参り十善講(講員9人)
- 3、春祈祷大数珠回し(講員9人 DVD収録)
- 4、浅間講富士山参り(山水講 今はなし)
- 5、念佛講(今はなし 平成25年DVD収録)
- 6、二十三夜講、三夜様(今はなし)
- 7、子安講、子安観音(今はなし)

4, 5, 6, 7の4つの講はすでに無く、念佛講は平成25年頃までは念佛を唱える人もいましたが、今は全く無いです。今回は寂れ行く村の信仰の中で残っている大師参り十善講を取り上げました。

大師参りは四国88カ所参りが原点ですが、市原から四国88カ所参りは到底無理なことで、庶民の信仰心の夢は叶えられなかったのであります。市原郡能満村に積蔵院という大寺があります。弘法大師の創建と称し、市原郡真言宗の総本山として多くの下寺を擁していました。積蔵院の住職栄寛師は菊間の千光院の住職有将師、君塚の明光院住職開演師に呼びかけ3人で弘法大師951年遠忌の記念として、四国88カ所を市原郡の真言宗の寺に移して、これにお参りすれば四国88カ所のお参りと同じ功德を得られると提唱しました。88カ所の御詠歌集を作り各真言宗の寺に配りましたのが今の市原市の88カ所参りです。

天明3年(1783)のことです。

現在市原市内真言宗寺院の山門の脇に阿波国〇〇寺移し、土佐国の〇〇寺移し、伊予国の〇〇寺移し、讃岐国の〇〇寺移しと刻まれた番札塔が建っていますが、こうした理由からです。

それにしても天明3年、今から235年前の昔交通機関の発達していない時代に市原郡全域の88カ所参りも困難であります。さらに縮小したのが光明山満光院住職です。旧湿津村は12カ村、12カ寺ありますが、真言宗の寺は荻作満光院第2番札所、勝間龍性院第3番札所、小田部法泉寺第4番札所、葉木地蔵院37番札所の4カ寺であり、今に至っています。

現在も上総4カ寺の大師参りとして満光院を本寺として大師参りを行っています。講の名前は十善講です。真言宗のお経の中に十善戒(十戒)があり、そこからの名前と思います。春彼岸の中日、秋彼岸の中日に上総4カ寺を巡拝して、佛前勤行を拝読しています。いつの時代に満光院の住職が上総4カ寺と決めたか定かではないです。

満光院も天保2年(1831)落雷により全堂焼失で天保14年(1845)再建し現在に至っており、記録は一切なしです。

葉木地蔵院がなぜ戸田村寺谷満蔵寺と同じ御詠歌であるかこの辺りが良く分かりません。私が数年前積蔵院住職岡島瑛昇師にお伺いしましたら、記録は一切なしとのことでした。

移し88カ所の件は市原郡島野の人で郷土史研究家落合忠一氏が我が積蔵院の資料から調査したものであると聞いていると岡島住職の返事でした。

積蔵院住職の作った88カ所移し霊場参り天明3年(1781)から10年後の寛政5年(1793)~寛政8年(1796)の4年をかけ、秩父34ヶ所、坂東

33ヶ所、西国33ヶ所、計100観音と四国88ヶ所参りをした人が我が勝間にいました。私の母親の生家の先祖です。各納経帳が残っています。私の叔父寅之助が貴重なものであると、満光院に預けました。当寺の住職近藤宗照師が当寺に預かっているのも心配だと言って佐倉の歴史民俗博物館に寄託しました。

各納経帳には上総国市原郡勝間行者とらと書いてあります(全六冊)。とらなる行者は西国参拝のために身体の修行をしたそうで笠森観音堂から笠をさして堂の上から飛び降りたり、堂の階段を一気に駆け上ったり、心身の鍛錬をしたそうです。又、現在のように遍路道は完全ではなかったようで道中道に迷ったそうです。参拝満願叶った後、道標を建てました。長柄山地内です。坂東、秩父西国四国寛政11年7月建立、勝間村又右エ門とあります。女の名前を入れるのは憚ったと思います。坂東、秩父、西国、四国、満願のお礼です。

また参拝前に心身鍛錬した笠森観音の常夜灯に勝間村又右エ門妻と台座に刻んであります。笠森観音に願掛けして満願叶った御礼の気持で少しの灯明料を奉納して台座に刻んで貰ったと思われます。

常夜灯の建立年月は文政13年庚寅秋7月吉日とあります。

平成17年に全六冊の納経帳が佐倉歴史民俗博物館より満光院に一時帰宅した。その時に勝間の郷土史研究家であり市原市古文書研究会である佐野彪氏が全六冊の納経帳を解読しました。

以下は佐野氏の解読文です。

以上書きましたが各種の村の信仰は出来るだけ多く残したいです。

勝間の十善講も永く続かせるために今回9月23日秋彼岸中日に本山満光院住職にお願いをして佛前勤行を習得して、録音テープに収録したので各彼岸以外の日にも勉強会を開いて十善講存続に努めたいです。又、勝間の出羽三山登拝は元禄16年(1783)から315年続いています。千葉県内の各地の三山参拝も少子高齢化でこの信仰は跡絶えている地区もあると聞いています。

寂れ行く村の信仰は出来る限り後世に孫子の代まで残したい。それが私共の任務であり、我がふるさと市原をつなぐ連絡会(ふるれん)の一員としての任務と思います。如何でしょうか。